



校庭の芝生化が
児童の心身の健康に
及ぼす効果

福田美紀

同志社大学文学研究科

これまでの調査結果

芝生化が心身の健康に及ぼす効果

芝生化3カ月後…

- ・ 校庭に出て遊ぶ子どもが増加
- ・ 身体活動の増加
- ・ 外で遊ぶ子どものストレス反応が減少(怒り・抑うつ)
(福田・鈴木, 2005, 2006)

これらの効果は
一時的な効果か？
長期的に維持されうるのか？

調査によってこれらの事を
明らかにしました

目的

芝生化の効果を**縦断的に検討**し、
芝生化の**効果の持続**を明らかに
する

芝生化前の**ストレス反応の高低**
によって**効果が異なる**のかにつ
いてもあわせて検討する

方法

調査参加者

大阪市公立小学校に在籍する

児童76名（男子39名,女子37名）

下記の全ての調査に回答した児童を対象に分析を行なった

芝生化前調査	： 2004年	6月上旬
1年後調査	： 2005年	12月中旬
3ヵ月後調査	： 2004年	12月中旬
2年後調査	： 2006年	12月中旬

ストレス反応指標：

上地（2001）小学高学年用簡易健康調査

「怒り」、「多愁訴」、「抑うつ」、「睡眠障害」

24項目

分析方法

芝生化前の調査を元にストレスが高い子どもと低い子どもを分け、芝生化後どのように変化するのかを検討した。

1学期

2学期

3学期

芝生化前調査



3カ月後調査

芝生化の年

1年後



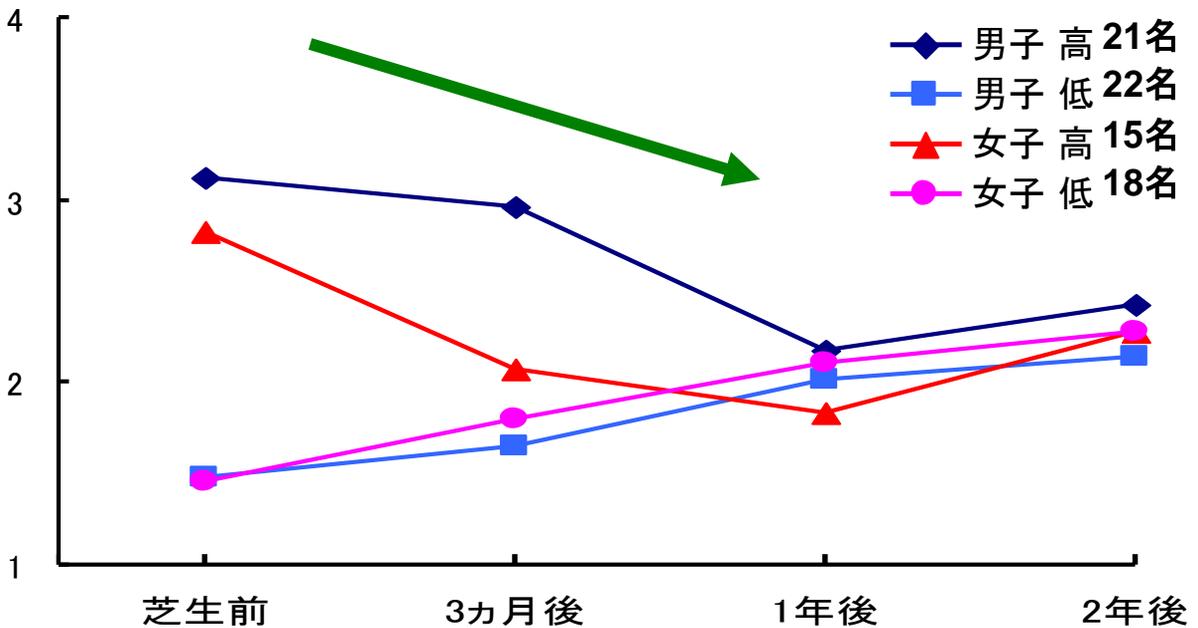
1年後調査

2年後



3年後調査

怒り反応の結果

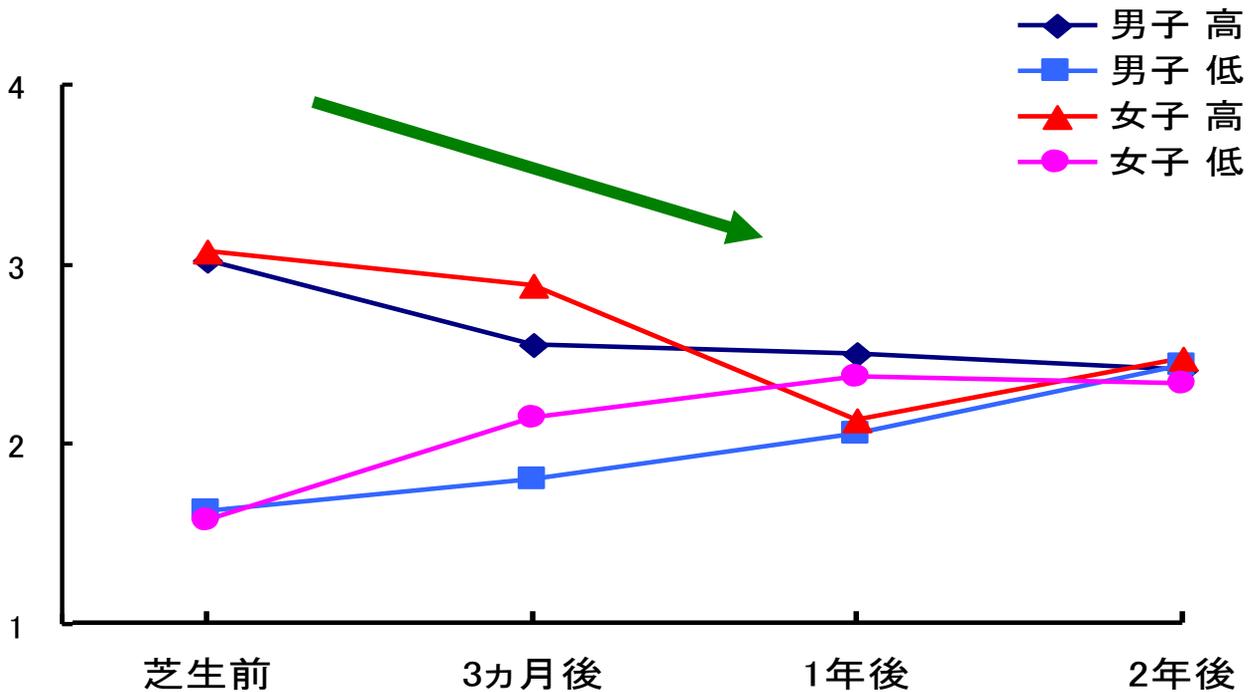


芝生化前ストレス反応が高かった男子・女子共に時間の経過と共に減少した。

怒りが低かった子どもたちの怒り反応の程度が増加した。

芝生化前の怒り反応が高い子と低い子の差は1年後には見られなくなった

多愁訴の結果

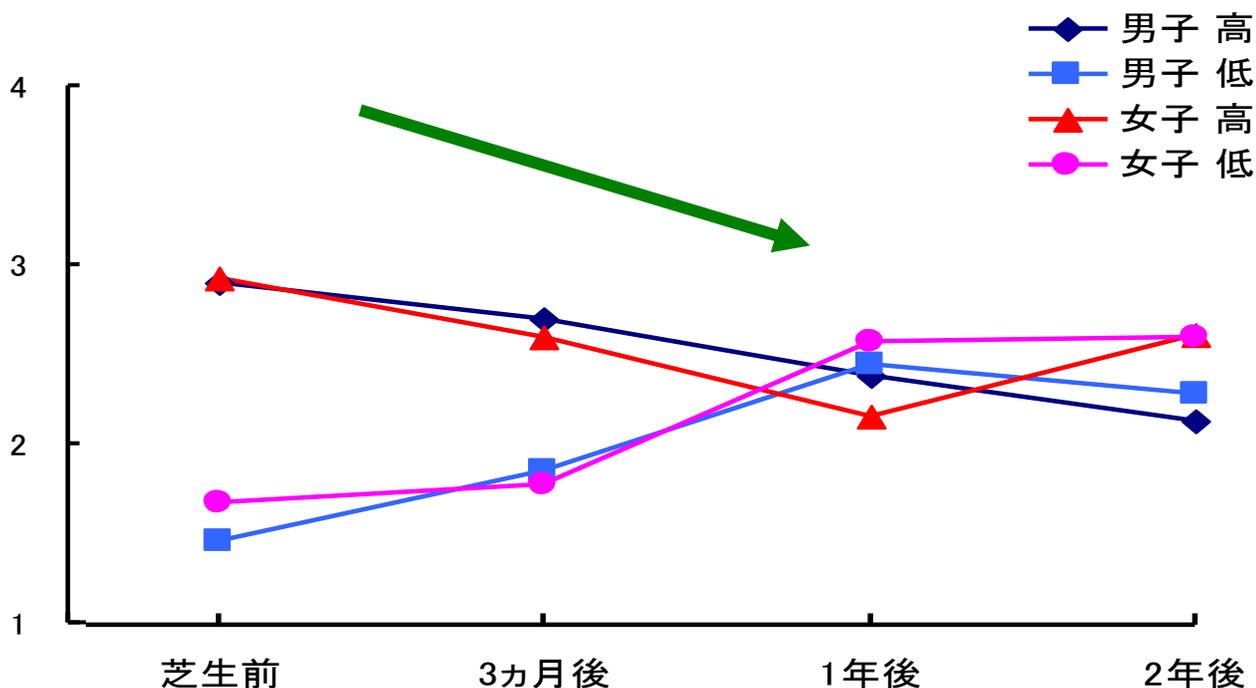


芝生化前ストレス反応が高かった男子・女子共に時間の経過と共に減少した。

多愁訴が低かった子どもたちは多愁訴の程度が増加した。

芝生化前の睡眠障害が高い子と低い子の差は1年後には見られなくなった

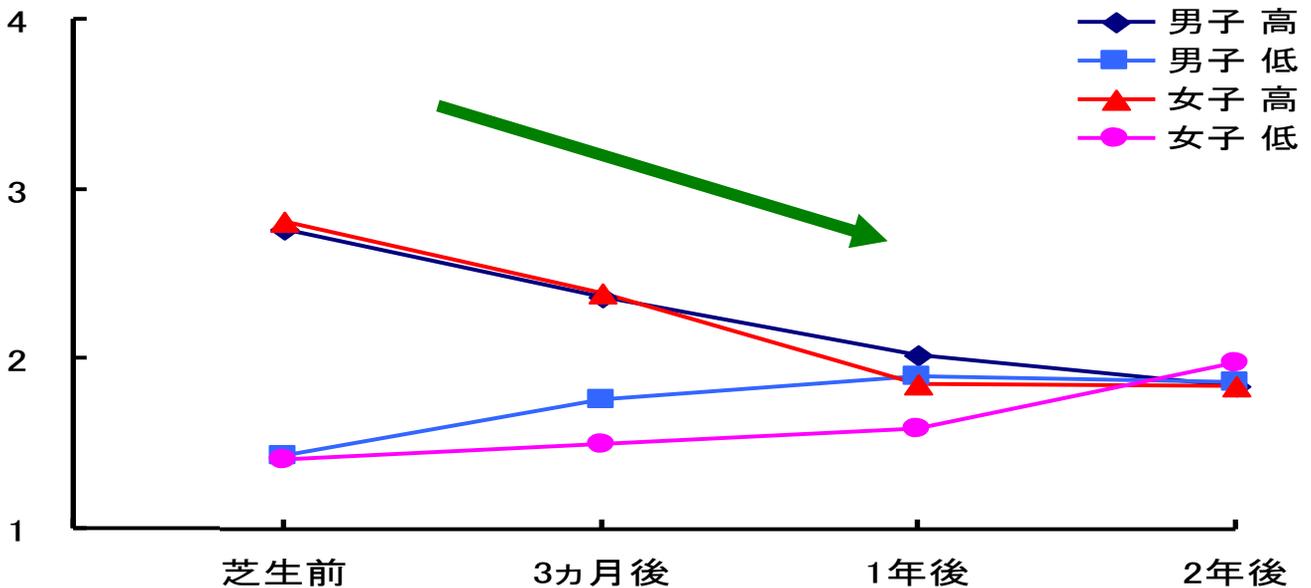
抑うつの結果



芝生化前、抑うつの高かった子どもたちは減少し、芝生化前、抑うつが低かった子どもたちは増加を示した。

芝生化前の抑うつが高い子と低い子の差は1年後には見られなくなった

睡眠障害の結果



芝生化前、睡眠障害を示していた子どもたちは、男子・女子共に時間の経過と共に減少した。

睡眠障害の程度が低かった子どもたちは睡眠障害の程度が増加した。

芝生化前の睡眠障害が高い子と低い子の差は1年後には見られなくなった

まとめ ①

- ストレスが高かった子どもたちは芝生化前よりもそれぞれのストレス反応が**減少**した。



これは、校庭を芝生にすることは過剰なストレスを軽減する可能性があるのではないかと考えられる。

- ストレスが始めから低かった子どもたちは芝生化前よりもそれぞれのストレス反応が**増加**した。



発達と環境の変化に伴うストレスが増加した可能性が考えられます。

しかし、小学生のストレス反応の平均程度を維持していることから、他の子どもたちよりもストレスが低いのではないかと考えられます。

まとめ ②

芝生化の効果は・・・

3ヵ月後のような短い期間で表われる
即時的な効果がある。

たとえば...

芝生化がリラクセーション効果をもたらししている

1年後までに現れうる穏やかな効果

たとえば...

- ・外に出る機会を増加し、運動能力の向上をもたらす
- ・身体活動の増加がストレスを発散する効果をもたらす